令和4年度 No.5

駒岡小学校だより

８・９月号

「もしも」の備え

校長　岸田 薫

暑い日の多かった夏休みが終わり、校舎に、一回り大きくなった子どもたちの元気な声が戻ってきました。コロナ禍のもとの夏休みも今年で3度目ですが、それぞれのご家庭ではどのようにお過ごしだったでしょうか。これまでのような行動制限はありませんが、第7波と言われる感染拡大は過去にない勢いです。学校では、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように、今後もいわゆる「三密」を避け、基本的な感染防止対策を徹底していきます。

さて、9月1日は「防災の日」です。1923 年のこの日に発生した関東大震災にちなんだものですが、本校では8月31日に、引き取り訓練を伴う総合防災訓練を予定していました。震度5強以上の大地震が発生し、通学路の安全確保が困難であるために引き取りによる下校を行うことを想定した、年に一度の大切な訓練です。しかしながら、現在の新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、同時間帯に大勢の方が来校して行き来する訓練は実施が難しいと判断し、やむなく11月に延期することとしました。急な変更となり、ご家庭の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力いただけますと幸いです。

私はこの夏、宮城県に震災遺構として公開されている「中浜小学校」を訪れてみました。海のそばの学校に、「10mの津波到達まで10分」との情報が入り、中浜小学校が選択したのは、本来の避難先の中学校への移動ではなく、屋上への避難でした。「全員で屋上へ―」この行動が、90人の命を守ることになりました。実はこの二日前にも地震があり、中浜小学校では、「もしも」に備えて、起こりうる様々な状況とその対策・避難の仕方を全職員で協議しており、これが、実際の迅速な避難に役立ったそうです。余震に怯えながら、マイナス3℃の寒く狭い屋根裏倉庫で一夜を過ごした子どもたちの気持ちを思い、改めて「備えておくこと」の大切さを強く感じました。

学校で毎月実施している避難訓練も、「もしも」のときに、一人ひとりが自分の命を守ることができるようにするための大切な学習です。9月4日には、規模を縮小してではありますが、地域と学校、行政とが連携して、地域防災拠点訓練を実施する予定です。ぜひ、各ご家庭でも、災害に対する意識を高め、「もしもの備え」について話し合ってみてはいかがでしょうか。

運動会や50周年記念式典を予定している2学期も、「子どもにとって」を常に中心にすえながら、教育活動を進めてまいります。ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いします。